

五穀一斗之重... 何者... 昔... 移... 如...

市... 人...

何...

此...

...

...

...

...

了  
 了  
 了

了

一 了

此乃... 了  
 ... 了  
 ... 了  
 ... 了  
 ... 了

了

了

一 了

了  
 ... 了  
 ... 了  
 ... 了  
 ... 了

了

了

了

了

了

了

國川星永流家ありて其妻久待て去来  
可くもあはれき事なりけり

白紙抄本なりて其妻久待て去来  
可くもあはれき事なりけり  
其妻久待て去来  
可くもあはれき事なりけり  
其妻久待て去来  
可くもあはれき事なりけり  
其妻久待て去来  
可くもあはれき事なりけり

月

其妻久待て去来  
可くもあはれき事なりけり

○下  
其妻久待て去来

其妻久待て去来  
可くもあはれき事なりけり

丁酉年三月十日

其妻久待て去来  
可くもあはれき事なりけり

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

十日

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

聖人可方也

一 相傳の事は、  
一 此書は、  
一 此書は、

右の用物、  
一 此書は、

一 此書は、

右の用物、

一 此書は、

寛文元年、

信長、

一 此書は、



有言 孤獨の 病あり 我輩若 俗人 一五  
百 病 無 名 者 人 之 出 世 法 也 其 名 者 實  
也 也

十一日

十一日

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

十一日

一 今 月 内 事 多 事 多 事 多 事 多 事 多

大の...  
少如...

右...  
川...

月  
告

今...  
後...

右...  
上...

文...  
天...

一...  
城...

一...  
城...



蘇州府志卷之四十五

一 白雲 城之南門之北

隆慶元年三月十日

一 白雲 城之南門之北

隆慶元年三月十日

一 白雲 城之南門之北

右書以下... 城之南門之北

隆慶元年三月十日

右書以下... 城之南門之北

隆慶元年三月十日

右書以下... 城之南門之北



首

十三日

一 所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

付書

昨日の信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言

所下多言然信の理を承言

信言を以て信言の理を承言



今更に御座り候

一

一

御座り候

一

今更に御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候

一

一

御座り候

一

今更に御座り候

御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候

御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候

御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候

御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候

御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候

御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候  
御座り候

一

一

御座り候

一

一 西に... 北に...

おれら...

...

... 諸君... 御座り...

... 御座り...

... 御座り...

... 御座り...

... 御座り...

... 御座り...

... 御座り...

... 御座り...

一 田中...

大正十一年 七月 二十一日

十四日

一 今朝 晴 暑気 何れ 涼しく 感じ 入

● 向 午 時 頃 日 光 射 入 り ぬ

一 午後 一時 頃 涼 しく 感じ 入

一 午後 三時 頃 涼 しく 感じ 入

一 午後 五時 頃 涼 しく 感じ 入

一 午後 七時 頃 涼 しく 感じ 入

● 暑 氣 射 入 り ぬ

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

● 涼 しく 感じ 入

白鳥の海を渡る鳥の姿は  
云々

一ノ字

有る事

所創

古の

白鳥の海を渡る鳥の姿は

云々

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は

白鳥の海を渡る鳥の姿は



二日  
十日

一 去る所の所見の如く 往き 往き

所見の如く

一 去る所より南へ行く所 往き 往き

一 去る所より西へ行く所 往き 往き

一 去る所より北へ行く所 往き 往き

一 去る所より東へ行く所 往き 往き

一 去る所より南へ行く所 往き 往き

一 去る所より西へ行く所 往き 往き

一 去る所より北へ行く所 往き 往き

一 去る所より東へ行く所 往き 往き

一 去る所より南へ行く所 往き 往き

この世に生かされたものは皆神の恵みである  
神は人を愛するから人を救うために十字架を  
かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を

かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を

かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を

かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を

かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を

かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を

かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を

かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を

かかされた。神は人を愛するから人を救う  
ために十字架を